

## 医療倫理小委員会で承認された治療法

当院の医療倫理小委員会にて、下記の医療が承認されました。対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、病院ホームページにて情報を公開することにより投薬を実施しております。なお、本件について同意できない場合、診療において不利益を被ることは一切ございません。

この内容に関して拒否される場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

実施内容	プログラフを間質性肺疾患に使用
対象者	間質性肺疾患
承認日	2024年3月6日
対象期間	承認日より永続的
概要	<p><b>【目的・意義】</b> 間質性肺疾患はステロイドや免疫抑制薬、抗線維化薬などの併用ないし単剤で治療されることが多い。プログラフ®は免疫抑制薬であるタクロリムス製剤である。現時点では多発性筋炎、皮膚筋炎に関連する間質性肺疾患のみ適応となっているが、実地臨床ではこれまでも特発性肺線維症以外の間質性肺疾患慢性期や、急性増悪後の管理目的で広く用いられ、特発性間質性肺炎診断と治療の手引き 2022年版にも記載がされている。実際にステロイドとの併用ではステロイドをより早く減量でき、かつ再増悪を抑制できている症例が多々あるため、有効な治療選択肢となりうる。</p> <p><b>【想定される不利益と対策】</b> 同系統の免疫抑制薬は血中濃度を測定し、各患者さんに合わせた投与量を調整して投与を行う。しかし副作用としては腎機能障害の報告があり、腎機能の悪化が見られた場合は血中濃度を見ながら少なめの量での投与とするか、投与を中止、ないし他の免疫抑制薬への変更を行うことで対策としている。免疫抑制薬であるため感染しやすい状態になりやすい。風邪などの感染対策は重要である。</p>
お問い合わせ先	順天堂大学医学部附属順天堂医院 薬剤部 医薬品情報室 大代表 03-3813-3111